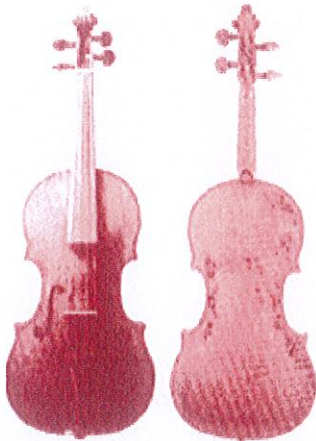


最初にバイオリンを作った人は誰？



現存する最古のバイオリン。アンドレア・アマティ作

バイオリンの先祖とされる楽器と比べて、バイオリンの楽器としての完成度は並はずれていました。しかも、改良を重ねて徐々に完成されたのではなく、1550年ごろ突如として、最初から完全なかたちで誕生したといわれています。といっても、最初のバイオリンが現在残っているわけではありません。このころの絵画にバイオリンが描かれていることから推測されたことなのです。

歴史に残っている最初期の製作者は、いずれも北イタリアの人で、クレモナで活躍したアンドレア・アマティと、サロという町のガスパロ・ディ・ベルトロツティ（ガスパロ・ダ・サロ）の二人。この二人の製作者とともに、バイオリ

ンの歴史は伝説から現実へと変わります。それは、二人の作ったバイオリンが今でも残っているから。ちなみに、現存する世界最古のバイオリンは、アンドレア・アマティの1565年頃の作品です。

バイオリンの親戚？ ヴィオール属

バイオリンは16世紀の半ばにこの世に生まれましたが、それよりやや早く、14世紀頃から作られていたバイオリンとよく似た楽器に、ヴィオール属があります。ヴィオール属は16世紀～17世紀に最も栄え、バロック時代にはバイオリン属とヴィオール属が共存していました。

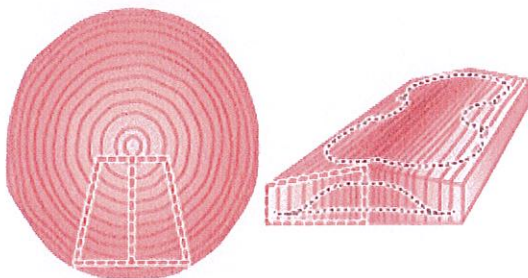
ヴィオール属の楽器には、バイオリン属のようなf字孔ではなく、C字孔またはもっと紋様の孔があいています。またバイオリン属との大きな違いは、弦の数が6～7本以上で、4度を基本にした調弦であること（バイオリンは4本の弦で5度の調弦）、左指の押さえる位置にフレットがついていること、ネックとの接合部の形がバイオリンに比べなで肩で、胴体の厚さがやや厚いこと。サイズもさまざまですが、チェロによく似た低音部のビオラ・ダ・ガンバが特に有名です。

表板の材料はモミの木の仲間

表板の材料は、音響特性がとても良い、軽いわりに硬いスプルスという木で、松の一種です。日本の松とは違いクリスマスツリーのモミの木のような木です。繊維がまっすぐ入った、面として強いものが選ばれ、繊維が切れないように敢えて鉋（なた）で切るなどの工夫がされています。

台形を2つ合わせて左右対称に

丸い木から材料を取る時に、外側の年輪の細かい方が厚いので台形になります。左右2枚をはぎ合わせる時には年輪の細かい外側が中央になるようにして、駒の載る所を一番硬くします。こうすると木目が左右対称になるので、振動特性が左右均一に得られるわけです。



表板、裏板の木の取り方

工芸的価値も大切に！

裏板と横板には、繊維がうねっていて模様のきれいなメイプル材を使います。

単に実用的なだけでなく、工芸としての価値も大事にされているからです。

名器のイメージを、手軽に味わえるようになりま した

クレモナのバイオリンがたいへん優れているといっても、名器といわれる楽器はとても高価で、一般の人が気軽に手にできるようなものではありません。しかし現代のテクノロジーによって、かなり近いイメージの楽器が無理なく求められるようになりました。ヤマハでは、アントニオ・ストラディヴァリとグアルネリ・デル・ジェスのバイオリンを、最新のテクノロジーを駆使して徹底的に分析し、そのデータを基に、人の手による仕上げ加工を施すというテクノロジーと職人技の融合によって、安価で高品質なバイオリンの製作を実現しました。それが、アルティエーダのSタイプとGタイプです。

この二つを見比べると、Sタイプのボディは怒り肩、f字孔はボディのライン

とほぼ平行で右の方が少しだけ長く、G はなで肩で、f 字孔は垂れ目になっています。そして音色にも、それぞれの特徴が表れているのです。



アルティエーダのSタイプ (左) とGタイプ (右)

弓の素材も、エコの時代！？

弓のスティックに好まれる木に、南米アマゾンのフェルナンブーコがあります。元は染料用の木でドイツによく輸出されていましたが、非常に硬いので弓に使われるようになったといわれています。しかし近年、資源が枯渇してきました。植林もしていますが成長には30年以上の時間がかかるのです。

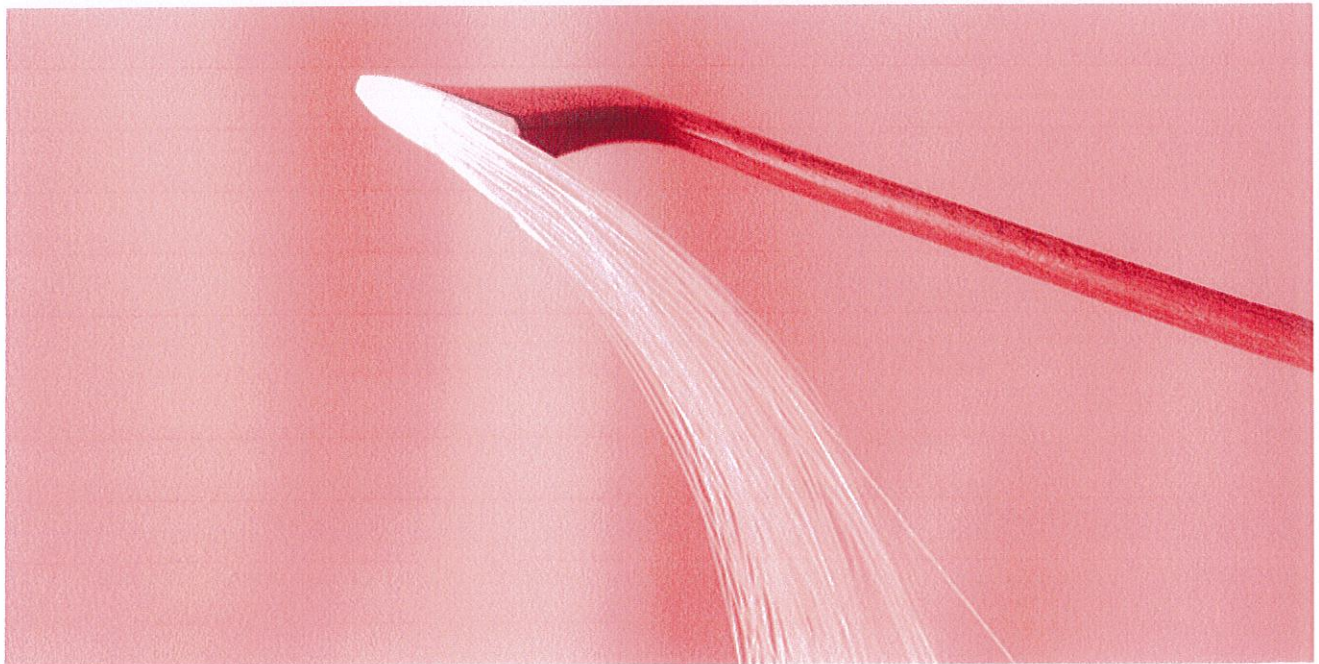
写真のカーボン弓は、木の代わりにカーボン素材を用いたもの。地球環境を守り育てつつ、音楽の芽を絶やさないために開発されたもので、吸い付きの良い、耐久性に優れた弓です。



カーボン弓

弓毛は馬のしっぽ

弓毛には昔から馬のしっぽの毛が使われています。バイオリンの弓1本に使われる毛は160本から180本くらいです。その毛が一直線状に並べて付けてあるわけです。弓毛には、縮れた毛や太い毛は外し、まっすぐなもののみを使います。



馬のしっぽを使った弓毛



弓身には堅い木を用いる

松脂による摩擦で、音を出す

弓毛には松脂（まつやに）を塗って演奏します。松脂は松の樹液を固めた、黄色や黒色の塊で、こすりつけると白い粉が出ます。粘着性なので塗ると弓がしっかりと弦をこすれるようになるわけです。

